

お 知 ら せ
平成 19 年 6 月 7 日
気 象 庁

第 132 回気象記念日フォーラム - 緊急地震速報を防災に活かす -

会場アンケート調査結果

6 月 1 日 (金) に日本教育会館 (一ツ橋ホール) で気象記念日フォーラムを開催しました。その会場で、来場していただいた方にアンケートに協力いただきました。

その結果、来場いただいた方のうち約半数の方から回答を頂きました。その結果をお知らせいたします。

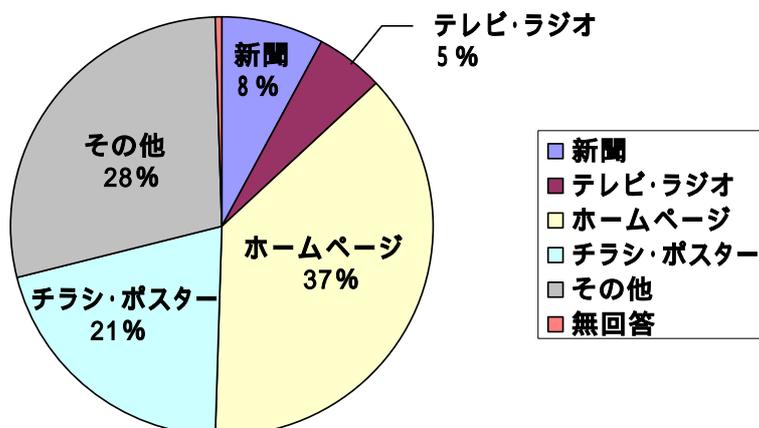
フォーラム来場者数 約 750 名
有効回答数 335 名



フォーラム開催時の様子

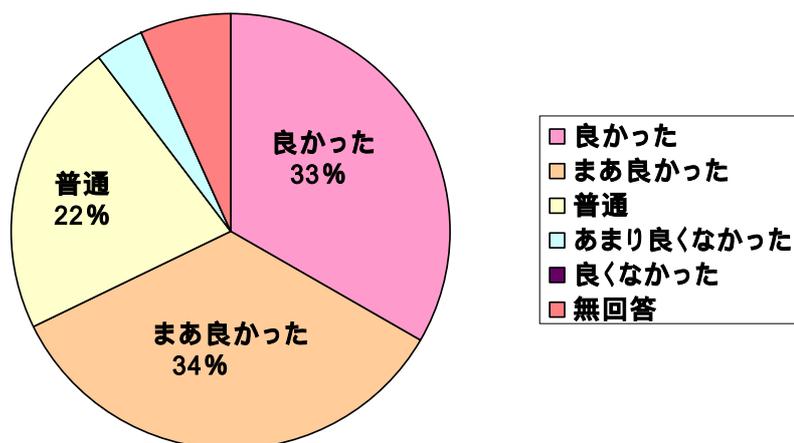
問い合わせ先: 気象庁広報室 (03-3212-8341 内線 2126)

Q1 .このフォーラムを何でお知りになりましたか

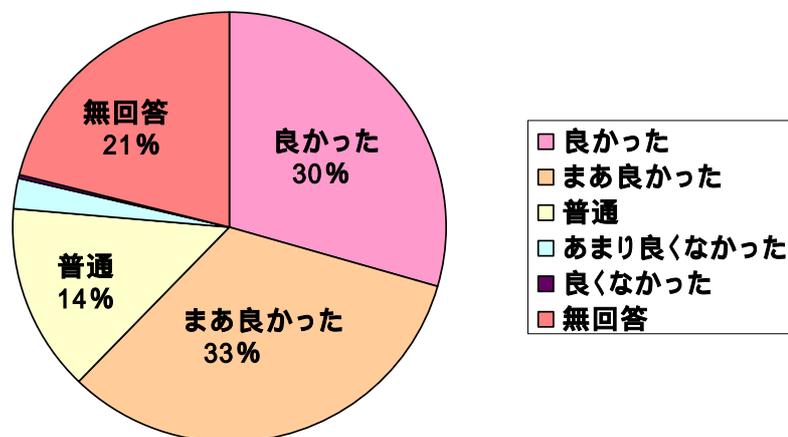


その他
 メール 会社の知り合い 気象友の会 気象予報士会から 知人
 職場からの紹介 関係省庁連絡会議

Q2 . 基調講演の内容はいかがでしたか

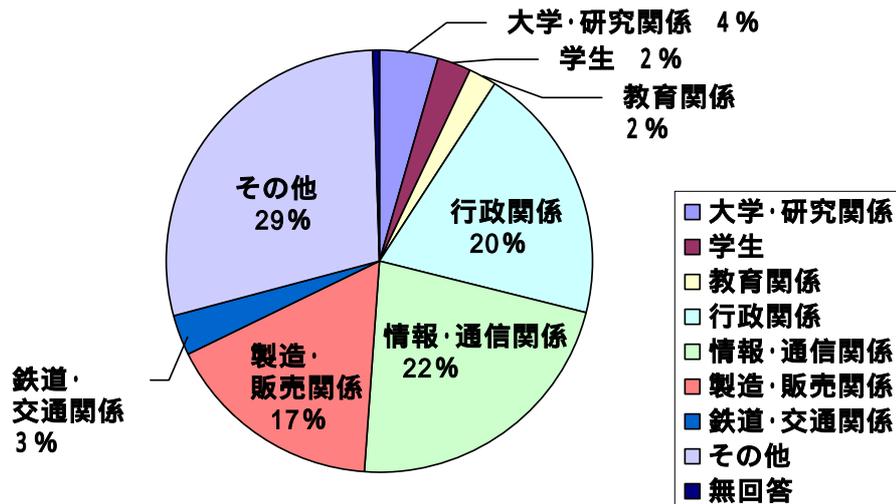


Q3 . パネルディスカッションの内容はいかがでした



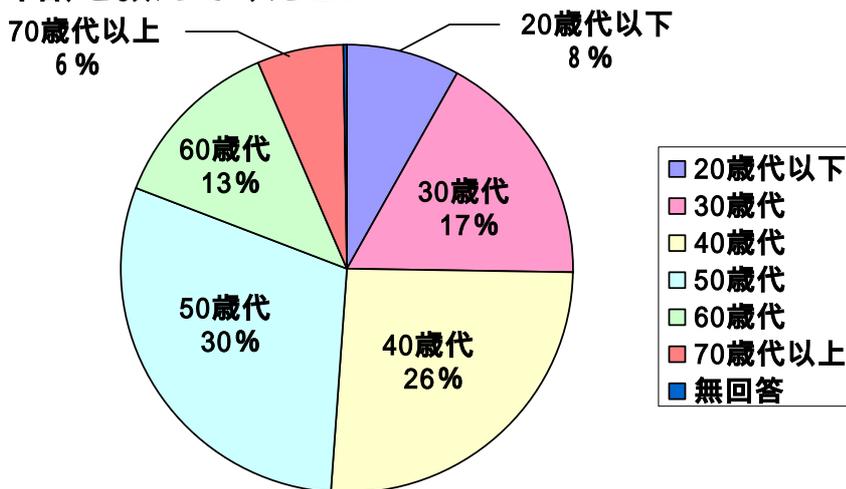
基調講演、パネルディスカッション、共に「良かった」「まあ良かった」との意見が半数以上であった。

Q 4 . ご職業の分野を教えてください

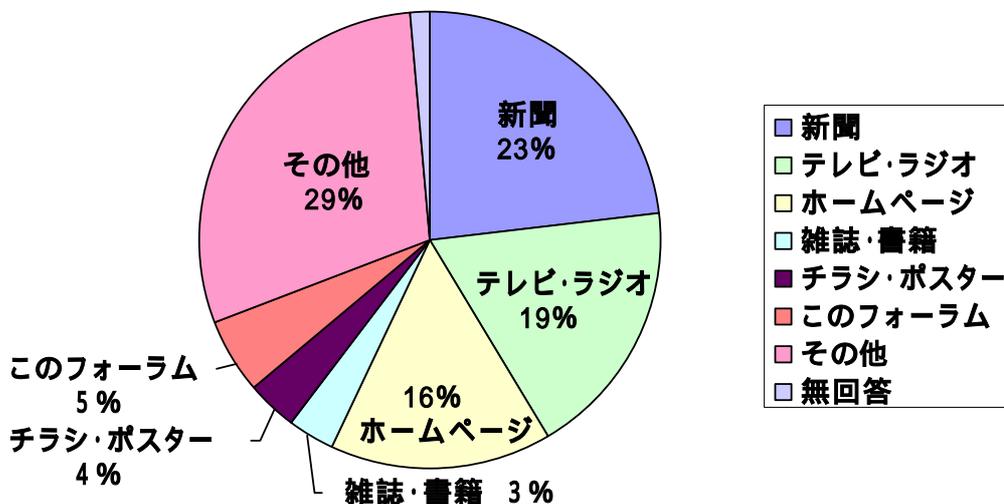


その他
 建設業 地域防災組織 警備関係 マスコミ 金融関係 地方議会議員
 ビル管理 病院関係 (その他の中では、建設業が比較的多い)

Q 5 . 年齢を教えてください

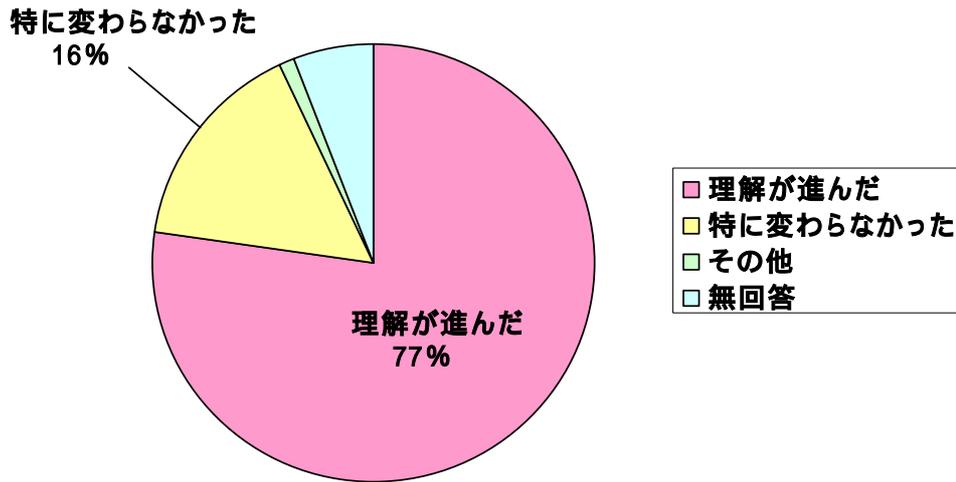


Q 6 . 緊急地震速報を何でお知りになりましたか

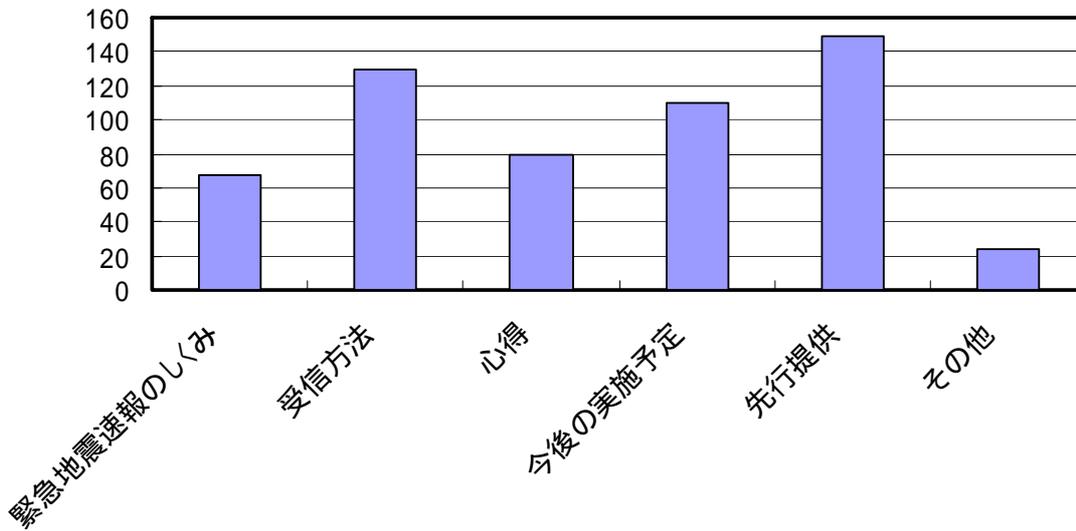


その他
 仕事上 業界団体から 行政文書 メーカーから 研究者から
 学会(気象・地震)から 案内状

Q7 . このフォーラムに参加されて緊急地震速報に対する理解は進みましたか



Q8 . 緊急地震速報について、どのようなことに興味をお持ちですか
(複数回答可)



受信方法 今後の実施予定 先行提供について興味が高い
 その他
 予測精度 活用方法 周知の方法 社会の反応

Q9 . 緊急地震速報をより一層周知・広報するためにはどのような取組み、工夫をしたらよいか、お聞かせ下さい

TV、ラジオ、新聞を利用する案が大半を占める。

(ご意見から一部抜粋)

- ・ 毎週一回程度、5分でもよいから広報活動を各局天気予報のとき1～2分速報の重要な説明、教科書・各雑誌に公報(1ページ以上)を義務づける
- ・ 新聞広告、TVなどを使ってキャンペーンが必要である。認知と理解を広いレベルで進めないと混乱する。
- ・ 新聞の全面広告。
- ・ 公共、民間放送問わず、CM等で早く具体的な内容を知らせること。
- ・ 緊急地震速報のキャンペーンガールをつくる。
- ・ 試験放送の実施。AC(公共広告機構)等の検討。気象庁主催での街頭PR活動(キャンペーン等)
- ・ 政府がメディア、マスコミ、行政が市報等を通じてくり返しくり返し市民に知らしめることが重要だと思います。また受信装置等は高価であるのでラジオ、テレビ、携帯電話を通じて安価で全ての国民が平等に受けられる様にして欲しい。
- ・ 防災の日などに、事務所・地域の末端まで通報が伝わるかどうか訓練して欲しい。起震車や地震体験コーナーのある施設での体験型学習も良いのではないかと思います。
- ・ 内閣府からの広報の充実。地方行政への協力通達。地方自治体・教育機関などへの設備充実。
- ・ 地域の「老人力」を活用する。退社した中高年層のボランティアを組織化する。地域の公民館等のカルチャーを受講している人は多数いるので、この人たちに呼びかければかなりの人数が組織化されるはずです。
- ・ システム導入を法律化してもらいたい。
- ・ 会場で流した広報用のビデオ等が有効と考えられる。ぜひ利用させていただきたい。
- ・ テレビによる試験放送(サイレン音の統一も含めて)、学校教育(他の防災知識も含めて)
- ・ 全国統一のサイレン音の決定(防災無線も、TVからも、カーラジオからもデパートの中でもどこにいても緊急地震速報の発表が等しく理解できるように)音声(文章)での伝達には時間がかかる